

あの子の為に頑張れる

街路の並木が揺れる。
「風が少しあるなあ。」
退屈な電車とバス。

「家が近かったらなあ。」と、ふと思ったが、
「いや、ちがう。それは困る。」
近かったら、あの子にもめぐり会えていないなあ。」
と、考え直す。

学校についても誰もいない。

「今日、練習ないんかなあ。」と思いつながら、
ボックス（部室）に入っても誰もいない。

日陰で、一人、先輩が本を読んでいる。

「おはようさん。」

「おお、来たか。」

「皆さんは？」

聞くと、皆はマラソンコースを走っているとの事だ。

後、三十分くらい帰ってくるらしい。

じっと待っているのも、おもしろくない。

それで、運動場の外周を僕は一人で走った。

思いっきり力入れて走った。